

世界のパートナーが、エイズ・結核・マラリアへの闘いの強化を誓約

2019年2月8日

ニューデリー：世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の第6次増資プロセスを開始する会合がニューデリーで開かれ、世界の指導者や国際保健の国際機関、市民社会団体、感染症の当事者たちが一堂に集い、エイズ、結核、マラリアの流行を終息させ、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けた加速のために協働することを誓いました。



2019年2月8日ニューデリーで開催された準備会合で、パートナー達はグローバルファンドの第6次増資の投資計画を発表。左から右：司会シヴァニ・パリッシン；WHOのプログラム担当事務局次長スーミヤ・スワミナサン博士；フランスのアニエス・ビュザン連帯・保健大臣；インドのジャガット・プラカッシュ・ナッダ保健・家族福祉大臣；インドのピューシュ・ゴヤル財務大臣；グローバルファンドのピーター・サンズ事務局長；ジョン＝クロード・クゲナー駐インドルクセンブルク大公国大使。

このグローバルファンドの第6次増資準備会合はインド政府の主催で開催され、各国政府、ドナー、国際機関などの技術パートナー、市民社会団体が集まり、「すべての人に健康と福祉を」という持続可能な開発目標3（SDG3）の達成に向けた団結の姿勢を示しました。グローバルファンドは、今後3年間で、最低140億米ドルを調達して、2023年までに1600万人の命を救い、HIV・結核・マラリアによる死亡率を半減させ、より強い健康システムを構築する計画です。

インドのジャガット・プラカッシュ・ナッダ保健・家族福祉大臣は、「インド政府とグローバルファンドは比類なき関係を築いてきました。2002年以来、インドはグローバルファンドの支援の受益国であるとともに、グローバルファンドへの拠出国でもあり、さらに技術サポートを受けています。インドは保健に対する国内予算の配分を増やしており、世界に模範を示すことができ光栄です」と述べました。

世界最大の結核蔓延国であるインドは、持続可能な開発目標（SDGs）に定められた目標より5年早い2025年までに結核を終わらせるという野心的な目標を設定しています。

インドのピューシュ・ゴヤル財務大臣は、三大感染症に対する国内資金を増やすという誓約を強調しました。インドは、プライマリ・ヘルス・ケアの拡大やユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成を含め、野心的な保健改革を断行するために、2025年までにインドの保健予算をGDPの2.5%まで増加させることを誓約しています。SDG3とエイズ・結核・マラリアの流行を終息するには、世界はすべての資金源—特に各国政府から—の資金総額を増やす必要があります。

「インドは国民の健康を改善することを約束します」とゴヤル財務大臣は述べました。「私たちは結核を含む感染症の流行を終わらせるために、国内予算を増やしています。手頃な価格で、利用しやすい、質の高い保健サービスをすべての人々に提供することは、よりよい健康のためだけでなく、より速い、包括的な国の成長のためになると主張したいのです」

今年G7の議長国を務めるフランスは、2019年10月10日にリヨンでグローバルファンドの第6次増資会合を主催します。増資会合は、今後3年間、三大感染症と闘い、強い保健システムを構築するための資金を調達するための会合です。

フランスのアニエス・ビュザン連帯・保健大臣は、「2030年までに三大感染症の流行を終わらせるための闘いを強化する時が来ました。この10月リヨンで、フランスは初めてグローバルファンドの増資会合を主催します。我々はこの会合を成功させるために、全ての関係者の行動を呼びかけています」と述べました。「これまで以上に、私たち全員が地球規模の健康のために団結する必要があります。フランスは、G7議長国である2019年を通じて、そして5月16-17日私が主催するパリでの保健大臣会合において、この強力なメッセージを伝えていきます。」

グローバルファンドのピーター・サンズ事務局長は、世界の保健分野におけるインドのリーダーシップを称賛し、SDGsの達成には各国政府からのコミットメントと資金が不可欠であると述べました。「SDGsに掲げられた目標を達成するには、このニューデリーで見たような世界規模の連帯が必要です。インドとフランスの世界的なリーダーシップ、そして市民社会のパートナーの強い声により、我々は三大感染症の流行から世界を駆逐することができます。」

グローバルファンドは、世界保健機関（WHO）が主導で設計した、世界保健に関するより効果的な協調と調整を提供するための「すべての人に健康な生活と福祉を保証するための世界行動計画」（Global Action Plan for Healthy Lives and Well-Being for All）の署名機関のひとつです。

WHOのプログラム担当事務局次長であるスーミヤ・スワミナサン博士は、「私たちは現在、保健関連のSDGsを達成するための画期的な計画を通じて、パートナーシップをさらに強化しています。この「世界行動計画」は現在12機関によって起草されており、全機関が協力して、投資金額に対して最大の結果と可能な限り最高の価値を提供することを目指します」と述べました。

第6次増資準備会合は、感染症対策にとって極めて重要なタイミングでの開催となります。過去十数年の間にHIV・結核・マラリアとの闘いには目覚ましい進歩がありましたが、資金不足や殺虫剤耐性、薬剤耐性の増加などの新たな脅威が進歩を遅らせ、三大感染症の蔓延を勢いづけています。

2002年の創設以来、グローバルファンドとそのパートナーシップは、著しい成果を上げてきました。支援対象となった各国で、これまでに **2,700** 万人以上の命が救われ、エイズ・結核・マラリアによる死者数は三分の一に減少しました。この成果は、主要二国間援助政府と主要国際機関や技術パートナー、民間企業、財団、途上国政府、市民社会、感染症の影響を受けている人々を含む、様々なパートナーたちとともに着実に実現してきたものです。

インドの増資準備会合で発表されたグローバルファンド第6次増資の投資計画書は以下からダウンロード可能です。[Full report \(英文\)](#) [Summary 和文 | 英文](#)

この投資計画には、今回の増資で目標額を調達できた場合に何が達成できるか、グローバルヘルスの進捗を阻む新たな脅威は何か、そして今、闘いを強化しない場合に生じるリスクについて詳述しています。